

●「社会」の形成に文字文化がどのように関わってきたかを、民族誌データと現地文書を用いて分析。黒タイの系譜文書「家霊簿」を縦横に読み解く貴重な論考。

ベトナム黒タイの祖先祭祀

——家霊簿と系譜認識をめぐる民族誌

国立民族学博物館 樫永真佐夫著

本書でとりあつかうのは、ベトナム西北部を中心に居住している少数民族、黒タイが継承してきた「家霊簿 (xổ phả huân)」である (黒タイ分布地域についてはpx「地図」参照)。家霊簿の継承者たちは系譜を記した文書であるという観念をもっている。その点だけを取り上げると、家霊簿も譜の一つと見なすことができる。

実際、家霊簿は一般に「家譜 (gia phả)」とベトナム語訳されている。しかし、家霊簿は漢文ではなく古クメール系の黒タイ文字で記されている点で譜と一線を画している。記述文字が異なれば読者も異なる。家霊簿の内容を人類学的観点から検討し、儀礼との関係を論じたおそらくベトナムで最初の研究書 [Cần và Kashnaga 2003] でも、「家譜」ではなく「祖先名簿 (danh sách tổ tiên)」をベトナム語への訳語として用いているが、本書でも *xổ phả huân* (ソー・フィー・フオン) を家譜ではなく家霊簿と訳している。譜との相違点と共通点についてこれまで十分に議論されていないからである。本書では、家霊簿がもつ形態、内容、用法の特徴に加え、黒タイがもつ父系理念や祖先祭祀の実践と家霊簿の関わりを記述する。

本書のねらいは、ベトナム西北地方の山間盆地で水田耕作を主生業として居住するタイ系言語集団の一つ黒タイの父系理念と系譜認識を、首領一族が中心となって継承してきた家霊簿の分析と村落における儀礼祭祀の実践の分析に基づき考察することである。これまでのベトナムにおける研究では、一九五四年以前の植民地期まで黒タイ社会は姓をもつ父系氏族ごとに階層化された封建制度を維持してきたというのが定説であった [Mac 1997: 51-55]。

しかしこれは姓、父系理念、姓を同じくする人々の政治経済的、儀礼的諸活動をめぐる現地調査の成果から導かれた結論ではない。「3節—1」で見ると、姓を同じくする人々がどのような機能集団を形成しているのか、現地調査に基づいて分析することで、従来の黒タイ父系氏族論を修正することも本書の目的の一つである。…… (序章より)

はしがき

1 序章

- 1 目的と方法論・黒タイの「家霊簿」を手がかりに
- 2 親族研究と系譜を記した文書研究の関わり
- 3 黒タイの村落生活
- 4 調査

2章 黒タイの文字文化における家霊簿

- 1 黒タイという集団範疇
- 2 黒タイの文字文化
- 3 家霊簿の継承

3章 黒タイ家霊簿の形式と内容に関する分析

- 1 黒タイ親族研究史における家霊簿研究
- 2 家霊簿の内容、形式の特徴

4章 家霊簿の読者と読書

- 1 村落における姓使用と祖先祭祀
- 2 ムオン政体と「カム・オアイ家霊簿」の関わり

5 終章

- 1 本書の焦点と本論の整理
- 2 読書行為論の視点から

あとがき 文献

体裁

- ・ A5判・上製・カバー
- ・ 三八〇頁

定価

- ・ 六三〇〇円
- (本体六〇〇〇円)

注 文 書	
流通センター取扱品	
出版	地方
販売	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	六三〇〇円
部	

樫永真佐夫著
ベトナム黒タイの系譜認識
年代記と祖先祭祀をめぐる歴史人類学

ISBN978-4-89489-138-8 C3039 ¥6000E

発行所 風響社
114-0014 東京都北区田端四一-14 九
電話〇三(三八二八)九二四九
http://www.fukyo.co.jp

[お客様控え]
ご氏名
ご住所
お電話
月 日